

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 7 月 13 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071601480		
法人名	有限会社 ケイ・シー・エステート		
事業所名	いちごの里 グループホーム輝き貳番館		
所在地	福岡県久留米市野伏間 1 - 1 2 - 1 〒830-0058 (電話) 0942-26-0202		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年7月6日	評定確定日	平成21年8月4日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 19 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16 人	非常勤 1 人 常勤換算 15.7 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての～ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	有( 200,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	420 円
	夕食	525 円	おやつ	円
	または1日あたり 円程度			

## (4) 利用者の概要( 6 月 19 日現在)

登録人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護 1	0 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	6 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下病院 野伏間クリニック 聖マリア病院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所などがホームに隣接しているほか、母体である病院もあり、医療の支援体制が整備・充実している。新しい職員が入職した場合の指導内容に一貫性を持たせるための配慮や未経験者を雇用した場合の指導体制がしっかりしている。家族会や運営推進会議では、ホームの体制やケア内容について厳しい意見が出されているが、このことから、家族にとって様々な意見や要望を言い易い環境とホームに対する期待度の高さが伺われる。利用者の状況と地域性が相まって地域とのかかわりが難しく働きかけが遅れているが、運営推進会議で地域情報を得て見学に出かけるなど、少しずつ地域との連携に努めている。今後とも、家族との更なる信頼関係の構築と母体法人である病院との連携が期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果は、運営推進会議及びカンファレンスで報告を行うなどの取組みがある。この過程において、質の向上に向けて事業所としての課題の理解に努めている。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の外部評価受審にあたり、各ユニット毎に職員がかかわって自己評価を行い、ユニットリーダーがまとめるなどの取組みがある。この過程で、地域密着への気づきが生じるなど、気づきを生む結果に繋がっている。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 民生委員、自治会長、老人会会長、行政職員、地域包括支援センター職員、家族等の参加の基、2ヵ月毎の会議の開催がある。職員の定着化の問題や地域としての受入れ体制、行政に対する意見・要望が出されるなど、活発な意見交換の場となっている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の面談、受診時やその都度の電話連絡、各ユニットのケアマネジャーや担当職員からのお知らせ時、家族会などを通じて、家族の要望等の表出に努めている。表出した要望等については、カンファレンスにて協議するなどの取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地域の春祭りや餅つきの見学、お花見、日々の散歩時の挨拶、近隣商店の利用など、機会を捉えての地域交流が営まれている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念を作成している。 今後、地域との連携を踏まえた具体的なサー ビス内容の検討と理念の検討を行っていく予定 である。		利用者の状況や職員の状況、地域性等の課 題はあるかと思われませんが、地域密着型サー ビスとしての視点に再度立ち戻り、職員間で 協議・検討を行うなどの取り組みを期待しま す。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホール及び各ユニットに理念が掲示され ている。介護計画の見直しやカンファレンス時 に、理念に基づいた内容となっているか確認を おこなうなど、実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域の春祭りや餅つきの見学、お花見、日々 の散歩時の挨拶、近隣商店の利用など、機会を 捉えての地域交流が営まれている。		利用者の状況や職員の状況、地域性等の課 題はあるかと思われませんが、今の取組みを継 続するとともに、なおいっそうの地域への細 やかな働きかけへの取組みを期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果は、運営推進会議及びカン ファレンスで報告を行うなどの取組みがある。 この過程において、質の向上に向けて事業所と しての課題の理解に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の会議の開催がある。職員の定着化 の問題や地域としての受入れ体制、行政に対 しての意見・要望が出されるなど、活発な意見交 換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	行政職員及び地域包括支援センター職員の運 営推進会議への参加がある。また、日常生活自 立支援事業の担当者の月1度の訪問など、市町 村との連携の機会を確保している。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	系列事業所との合同勉強会にて制度について 学ぶ機会を確保するなど、職員の制度に対する 理解を深めるように努めている。家族に対して は、必要と思われる家族に対しての説明は行っ ているが、その他の家族への制度についての周 知を図る取り組みは今後の予定である。		運営推進会議や家族会等を利用して、行政 職員や地域包括支援センター職員などから制 度についての講義をしていただくなど、広く 情報を発信し、繰り返しの制度の説明と周知 への取り組みに期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族面会時の面談や受診時、その都度の電話 連絡、各ユニットのケアマネジャーや担当職員 からのお知らせ時などを通じて、さまざまな内 容についての報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族面会時の面談や受診時、その都度の電話 連絡、各ユニットのケアマネジャーや担当職員 からのお知らせ時、家族会などを通じて、家族 の要望等の表出に努めている。表出した要望等 については、カンファレンスにて協議するなど の取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	ユニット合同での行事を通じて、職員と利用 者は馴染みの関係を築いている。新しい職員が 入職した場合は、3ヶ月間の試用期間を設け、 同じ職員が指導にあたるなど、利用者へのダ メージに配慮した取り組みが行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体での採用であるが、年齢や経験・資格の有無は問わず、本人の希望やその時々々のホーム状況に応じての採用である。資格取得を目指す職員に対して勤務調整を図ったり、パートから正社員へと雇用形態を変えるシステムなど、職員のスキルとモチベーションを高める支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や日々のケアを通じて、高齢者の人権について理解を深めている。また、高齢者の人権にとどまらない幅広い人権についての事例を基に、カンファレンスで勉強会を行うなどの取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自の指導マニュアルに基づいた職員研修や系列事業所との合同勉強会、毎月のカンファレンス時の勉強会などの取り組みがある。また、各種研修案内を提示して希望を募ったり、職員を振分けるなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック別研修会への参加を通じて、他の事業所との職員レベルでの意見交換が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の自宅訪問と面談を通じて顔見知りの関係を作り、居室は自宅に近い環境整備を行っている。知人の方の面会や家族面会を頻繁にお願いするなど、利用者の精神面に配慮した支援が行われている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日々の会話を通じて、精神面でのかわりや学びを得ている。利用者の趣味の話きっかけに話題が膨らんだり、野菜の作り方、編み物の仕方、お茶の入れ方など、利用者から多くを学んでおり、お互いを支えあう関係づくりへの取組みが伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や日々のかかわりを通じて利用者の思いを把握し、家族面会時や家族会時に家族の要望や思いの把握に努めている。把握した内容は、センター方式の様式に転記され、職員間での情報共有が図られている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当職員が日々のかかわりを通じて利用者や家族の希望等の把握に努め、担当者会議にて関係する職員からの情報を追加しての介護計画書の作成がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	ケアマネジャーによる毎月のモニタリング、 6ヶ月に1度及び状態変化時における介護計画書 の見直しが行われている。また、毎月のカン ファレンスにて、職員の気づきを基に、全利用 者の現状に即した協議が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした看取り支援、リハビ リ受診、家族対応が無理な場合に今までのかか りつけ医への受診支援、自宅への外出支援な ど、柔軟な支援が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医があるも、今までのかかりつけ 医への受診も可能である。基本的には、今まで のかかりつけ医への受診は家族対応であるが、 家族対応が無理な場合はホームで対応するな どの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化した場合の指針」について 説明し、「医療連携に関する同意書」にて同意 を得ている。利用者の状況に応じてその都度、 主治医、家族、事業所を交えて協議し、方針を 共有していく取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	タイミングを見計らったのさりげない声か け、丁寧な呼称、利用者の出来る事を見守りな がらの支援など、利用者の精神面でのかわりに 配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を取る場所やタイミング、日中の過 ごし方など、利用者一人ひとりの生活リズムに合 わせた支援が行われている。このことから、「そ の人らしさ」という理念の追求と実践への取組 みが伺える。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	主食と汁物はホームで、おかずは法人内の厨 房で調理し提供している。1週間に1回の手作り おやつの日や日曜の夕食をホーム内で調理す ることにより、食へのかわりを感じていただく ための工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	基本的には、週2回の入浴日の設定である が、お風呂の準備は毎日行っており、希望によ り翌日へ変更したり、足浴や清拭を行うなど、 清潔保持への取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	利用者一人ひとりの趣味や出来る事、楽しみ 等を把握し、介護計画書に取り入れての支援が ある。買い物、会話、散歩、洗濯物干しやたた みなど、精神面での支援を第一に捉えての取組 みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩、買物、自宅への外出支援など、 利用者個々の希望に応じた外出支援が行われて いる。また、行事としての花見や初詣、地域の 春祭りや餅つきの見学など、柔軟な対応が行わ れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関は開錠されているが、玄関内扉は簡易施 錠がされている。家族会で施錠に関して検討し た結果、安全面を考慮して施錠の要望が出さ れ、管理者は施錠の弊害を話し、可能な限り開 錠へ取組む旨と施錠に対する同意を得ている も、開錠には至っていない。		施錠による弊害を再度認識し、施錠するこ とを常態化せず、利用者個々の外出傾向の把 握とそれらデータの積み重ねによる職員配置や 勤務体制の変更等の工夫、工賃間や併設事業 所も含めた連携など、利用者の安全を確保し ながら開錠に向けた取組みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施のほか、系列グルー プホームとの合同による自主訓練などを通じ て、消火器の使い方や避難誘導方法について熟 知している。非常災害時の連携として、近隣店 舗への声かけや地域防災訓練への参加はこれか らである。		今考えられている、近隣店舗への声かけや 地域防災訓練への参加等を実践され、非常災 害時の地域との相互連携や協力体制づくりへ 取組まれることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	おかずは法人内の栄養士が管理し厨房で調理 しており、治療食への対応も可能である。主食 と汁物はホームで作っているが、利用者の状況 に応じて主食の量を減らすなど、心身状態に合 わせた食事形態の提供等の支援が行われてい る。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前はスロープがあり、ホーム内は段差が なく、安全に移動ができるつくりとなってい る。ホーム内を通り抜ける風は心地よく、プラ ンターには季節の花が咲き、リビングや居室で くつろぐ利用者の姿が見受けられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や花が飾られ、鏡台や仏壇、 カーペットなどが持ち込まれており、入居前の 生活環境や人となりが見える居室であった。		

は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号